

4/21 検討状況報告会の概要

- 子育て・教育部会の取り組み概要
- これまでの情報提供内容
 - ・ 富秋中学校区の児童生徒数など概要
 - ・ 小中一貫校検討の背景・効果
 - ・ 児童生徒数と施設一体型の関連
 - ・ 南松尾はつが野学園の説明・見学会実施
 - ・ 他市事例
 - ・ 施設一体型小中一貫校について
 - ・ 部会での主な意見 等

1

説明内容

- ・ 小規模校のメリット・デメリット
- ・ 小中一貫校として工夫が必要な点
- ・ 児童生徒数と施設一体型の関連
- ・ これまでの主な意見等のふりかえり

小規模校のメリット・デメリット

メリット

- 教職員が子ども一人ひとりを知っている
- 学習状況や生活指導を共通理解しやすい
- 職員全体で細やかな指導・見守りができる
- 保護者、地域の人材が学校教育に積極的に関わり、地域教材を活かした教育活動が充実
- 地域全体で、子どもを育てる教育環境

デメリット

- クラス替えができず、人間関係の固定化
- 多様な意見にふれる機会が得られにくい
- 集団行事、部活動などに制約が多い
- 校外学習等の費用やPTA組織での負担が多くなりがち
- 教員が複数の校務分掌を担当することになる

3

小中一貫校として工夫が必要な点

- 9年間の系統性に配慮した指導計画の作成・教材の開発
- 年間行事予定の調整・共通化・内容設定
- 時間割や日課表の工夫
- 児童生徒の人間関係が固定化しないような配慮
- 小学生高学年のリーダー性・主体性の育成
- 小中での打合せや研修時間の確保
- 教職員の負担感・多忙感の解消

4

児童生徒数と施設一体型の関連

基本的な
考えとして

仮に**1学年1クラス**であっても、**施設一体型義務教育学校**とすることで、**9年間の系統立った教育等を受けることができるため、有益と**考えている。



施設一体型義務教育学校の場合、2校種の教員がいるので1つの学校として、子どもに関わる教員の数は多くなります。

専門部会での意見

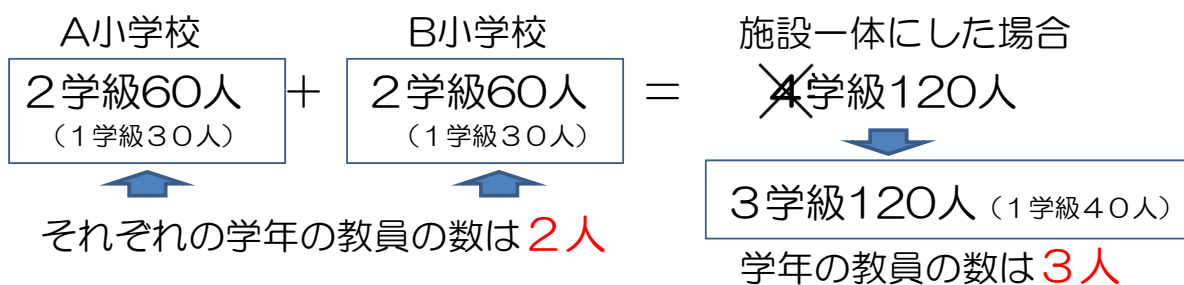
「例えば、各小学校2クラスあったものが施設一体型になり、3クラスになり、子ども1人当たりの教員数が少なくなるとは、施設一体型義務教育学校にメリットがないように思える。」

5

児童生徒数と施設一体型の関連

「例えば、各小学校2クラスあったものが施設一体型になり、3クラスになり、子ども1人当たりの教員数が少なくなるとは、施設一体型義務教育学校にメリットがないように思える。」

教員の定数 ⇒ 児童40人に教員1人（1・2年は35人に1人）

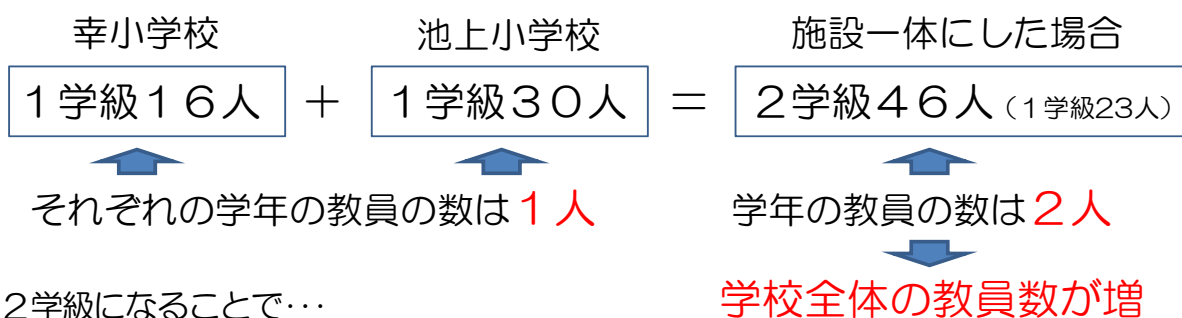


学年担任が2人から3人となり、学年・学校組織の充実が図られます。また、校務分掌などの先生方の負担が軽減されることで、子どもと向き合う時間の確保も図られます。一方、上記の例の場合、1学級あたりの子どもの数も増えます。

6

児童生徒数と施設一体型の関連

富秋中学校区でのイメージ例



2学級になることで…

- クラス替えが可能に
- 集団活動や学年行事が充実
- 担任の教材研究が深めやすくなるとともに複数で学年を見守ることが可能に

学校として…

- 教員の数が増えることで、日々の教育活動や行事、地域連携など学校組織の充実が図られます。
- 同校種、異校種の同僚が増えることにより、校内での教員の資質向上が促進されます。

7

既に関校している学校でのアンケート調査結果

①開校後の状況 **成果面**

- 中1ギャップの解消
→進学による新規不登校生が0になった
- 児童生徒数が増え、クラス替えができたことにより人間関係の固定化の解消が図られた
- 異校種の教員が日頃から意見を交わし、研修も共にすることで児童生徒理解など資質向上が図られている
→きめ細やかな指導ができている
- 学校行事の活性化が見られ、活気が出ている

8

既に関校している学校でのアンケート調査結果

②開校後の状況 **課題面**

- ・ 6年生のリーダーシップの維持
- ・ 小中での打ち合わせの時間の確保に工夫が必要
- ・ 特別教室や体育館、プールなどの割り当てや各行事の調整
- ・ 授業時間の違いによるチャイム設定や中学校の定期テストなどの際の小学校の配慮が必要
- ・ 小中の生活指導上のルールの違いによる指導の難しさ

9

【専門部会⑨ 小学生と中学生が一緒に学ぶことへの不安解消にむけて】

主な意見等

地域の子育て環境に対する不安について

- ・ 公園で小学生と中学生がトラブルになり小学生の遊ぶ場がなくなる。そういった問題があるまま小中一貫校にしていくことについては反対。幸小学校と池上小学校が統合することは良いと思う。
- ・ 小中学校の連携はできてきたが、地域ぐるみで子どもを育てていく力については不安が残る。イベント等を、地域で子どもを育てる力をつくるきっかけにできれば。

小学校段階での友だち関係や小中学生のつながりを深めていく取り組みを今後も進めていく必要があります。同時に、地域全体で子どもを育む町づくりを一層推進していくことが大切です。

10

【専門部会⑨ 小学生と中学生が一緒に学ぶことへの不安解消にむけて】

主な意見等

地域の子どもが減少している問題について

- 仮に統合しても1クラスのままだとなぜ小中一貫校にするのかが分からなくなる。
- 生徒の数が減少し、クラブ活動の運営がままならないことで、子どもの選択肢が減り、活動に参加しなくなることで放課後時間をもてあますことが問題につながるのではないか。
- 校区編成の問題を含め生徒を増やすような取組を考えてほしい

小学校においては1学年あたりの児童数増が確保されます。施設一体型になることで、異学年交流の充実や9年間の系統的な教育が行いやすくなります。また、部活動の選択肢が増えるなど、過小規模による課題の解消が期待されます。今あるコミュニティを基本として、校区編成を検討していきます。

11

【専門部会⑨ 小学生と中学生が一緒に学ぶことへの不安解消にむけて】

主な意見等

保護者への情報提供の仕方について

- 行政の資料を見ると、今の学校の問題点が見えない。保護者へ危機感が伝わっていない。

問題点の示し方は、慎重に扱うべき内容のものもありますが、各校の課題解決に向けて地域、保護者の方が関わっていただけることはとても有効なことなので、声をかけ合い、様々な形で学校運営に参画していただきたい。

12

【専門部会⑨ 小学生と中学生と一緒に学ぶことへの不安解消にむけて】

主な意見等

富秋中学校、校区全体のイメージ改善に向けて

- ・富中は生徒と教員の距離が近く親身で保護者とも連携が取れるので自分の子どもは通わせたい。
- ・問題は中学校だけでない。小・中それぞれの問題をどのようにクリアするかまず整理すべき。学校だけでは解決できない。
- ・子ども達に居場所（学校や施設や公園など）の選択肢をつくってあげることが重要。

学校のあり方の検討にあたり、地域の参画は不可欠です。今ある学校の良さとともに、課題解決に向けて地域とともに取り組むことがますます求められています。まちづくりと併せて検討することで、子どもの教育環境の充実を図っていきたいと考えています。

13

【専門部会⑩ 施設一体校とする場合の教育内容（イメージ）について】

主な意見等

施設一体型義務教育学校とすることへの不安・疑問

- ・なぜ施設が一体になったら教育内容が充実するのか、施設一体型義務教育学校にしないでいいのか、具体的なことが分かりづらい。
- ・少人数で先生が1人1人をみてくれる今の小学校に不満はなく、このままで良い。

小中がひとつになることで子ども達に関わる大人の人数が増えることや各小学校の良い取組みを両方経験できることなどの充実するポイントがあります。

学校規模、学級規模にはスケールによって、それぞれメリット、デメリットがあります。クラス替えができ、多様な意見にふれ、切磋琢磨できる適正な規模が望ましいと考えています。

14

【専門部会⑩ 施設一体校とする場合の教育内容（イメージ）について】

主な意見等

施設一体型義務教育学校とすることへの不安・疑問

- 小・中学生が常に一緒に当たり前の環境になれば、状況が緩和され良い化学変化につながるかも。それにより子ども達が中学校をより良い状態で卒業し、将来大人になり地域に帰ってくる等、地域にも良い方向に動いてほしい。
- このまま子どもが減っていけば、施設一体型になったとしても、結局1クラスになり意味をなさないのでないか。

今年度の人数で幸小学校と池上小学校が一緒になった場合は、全学年で児童数増を確保できる見込み。ただ児童数は減少傾向であるため、よりよい教育環境をつくり、波及効果として「地域に戻って子育てをしたい」と思えるような学校づくりを進め、人数確保につなげていきたい。

第11回子育て・教育部会 主な意見

《施設一体型義務教育学校（小中一貫校）について》

- 施設一体型義務教育学校を前提に、今後も議論していくこととして挙げた意見
 - ・個人的には賛成だが、みんなの懸念や不安を拭えていないので、今後学校・地域・保護者・市が連携できるかどうか、話の進め方が大事
 - ・地域のイメージは悪いかもしれないが、良い所、良い子もたくさんいるので、そういった面を見てもらえるような方向性につくっていく必要がある
 - ・今後子どもたちがこのまちで過ごしやすくなるよう、前向きに考えるべき。悪いこともあると思うが、良い所だけ見て進めていければと思う
 - ・施設一体型義務教育学校の悪いイメージを全て議論に挙げ、みんなで良い部分に変えていきたい
 - ・中学生に責任を持たせれば成長する機会にもなるなど、やりようによっては子ども達がしっかり成長できる学校づくりも可能ではないか
 - ・今の先輩がつくってきてくれた学校を、次の世代に引き継いでいけるように、地域の子どもたちと一緒に作っていかないといけない
 - ・単なる勉強だけでなく、子どもがどのように生きていけるかという教育をしてほしい
 - ・今通っている生徒や働いている教師たちがどういう教育をしたいのか、望んでいるのかということが議論に反映されてほしい
 - ・どこの学校にも負けない特色をつくっていききたい
 - ・みんなが夢を持てるような学校づくりをしたい。
 - ・PTAとして、教育現場は今の体制では行き詰まりを感じているため、今回がきっかけとなって今の状況が動くのではないかという期待がある
- 施設一体型義務教育学校とするのであれば不安・懸念を解消してほしいという意見
 - ・実感はないが、するのであれば、今までにない取組みもたくさんやってもらいたい
 - ・反対でもなく賛成でもない。するのであれば通学など安全対策をしっかりやってほしい。
⇒市が通学路に立つことは難しいが、市としてどのような安全対策ができるのか、地域と役割分担をしながら不安を取り除いていきたい（市）
 - ・校区の問題は避けて通れない。きちんと考えるべき
 - ・中学生が怖くて学校に行かない、悪影響を我が子に及ぼすのでは、など親としては心配
 - ・施設一体型義務教育学校としたあとも、今見えなかった問題が出てくると思うので、学校をつくるまででなく、学校を作った後のことも考えてもらいたい
 - ・時期尚早。現状でも、通学の見守り隊など地域に頼ってばかりなので、まずは保護者が地域と協力する体制をつくるべき
- その他
 - ・今の児童の意見、将来子どもを通わせる可能性のある世代の意見を取り入れたい

（まとめ）

「地域一丸で子育て・子育てを支援」ということについては、大人と子どもの信頼関係づくりや、大人同士が相談しあえる環境づくり、今ある活動を強化し支えていくためにも小さな取り組みを積み重ねると、それを支える体制、ネットワークづくりが必要という共通認識を持ち、異論はなかった。施設一体型義務教育学校については、「全て賛成」というわけではないが、反対という意見はなかった。「やるのであれば」という意見が最も多く、もし施設一体型義務教育学校とするのであれば協力する、という前向きな意見が多かった。ただし、時期尚早とする意見もあった。

《今後の動きについて》

- 各部会が出た議論について、5～7月の検討会議で再度議論。7～8月頃に、まちづくり構想全体についての説明会やアンケートを実施。それらを踏まえて、検討会議からとりまとめたまちづくり構想を市へ10月に提出。その構想を踏まえて市で議論したものを最終的に3月に示すスケジュール。
- 学校についての議論の進め方については、部会での意見をベースに、検討会議での議論の流れを確認しながら、並行して教育委員会としては地域への個別説明について今後検討。上記アンケートとは別に、教育委員会としてのアンケート実施など、（施設一体型義務教育学校化について）理解が進み、地域の機運が確認できれば、適正就学対策審議会に諮り、最終的な手続きに進む。

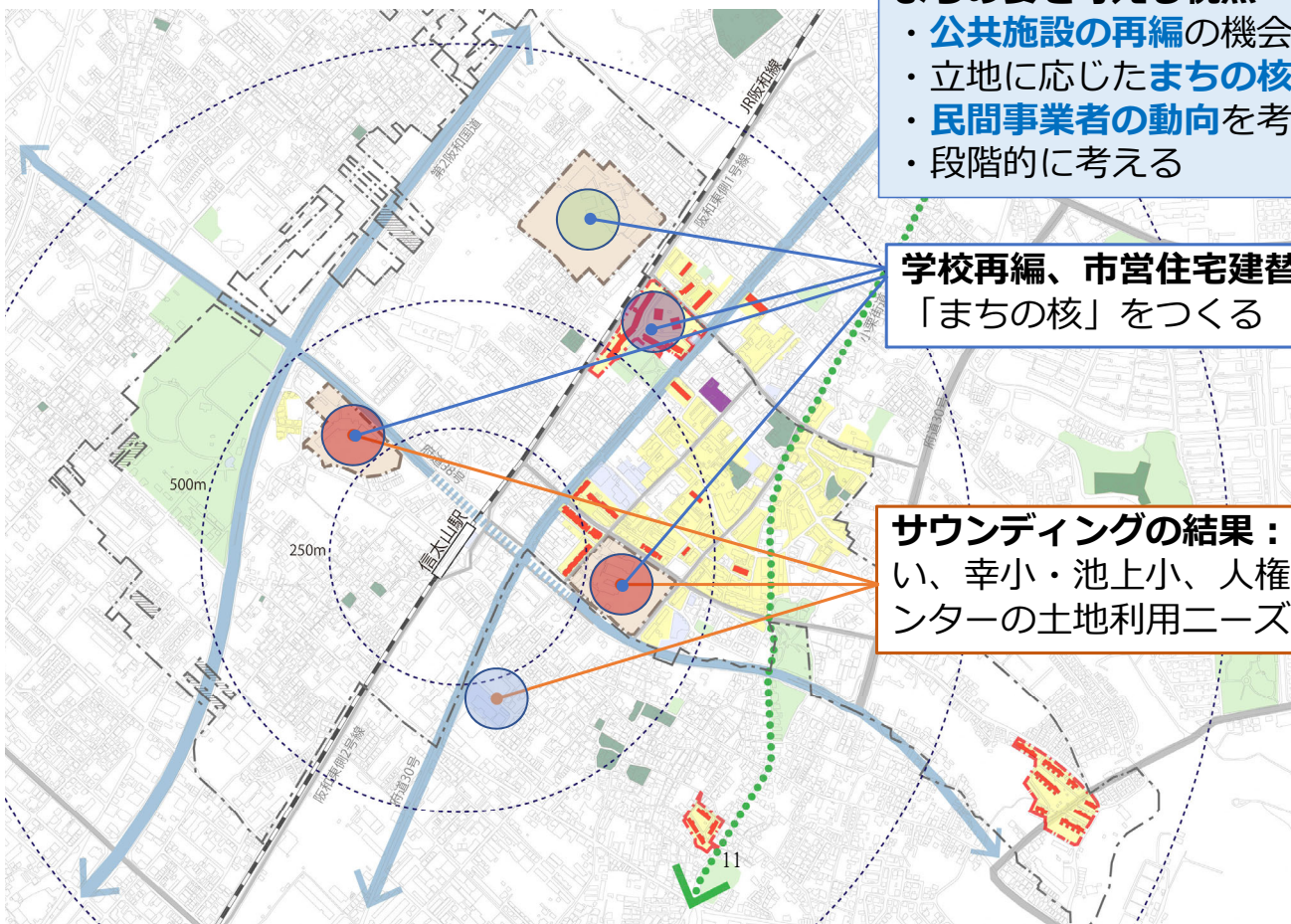
「まちの核」となる 多世代が住む・交流する複合拠点について

議論のためのたたき台

2019.5.7
作成：市浦ハウジング&プランニング

1. 将来のまちの姿（機能の配置等） ～考える視点とイメージ～ （検討会議（3/28）配布資料 ダイジェスト版）

※議論のため用意したたたき台です



まちの姿を考える視点

- ・ **公共施設の再編**の機会を活かす
- ・ 立地に応じた**まちの核**をつくる
- ・ **民間事業者の動向**を考慮
- ・ 段階的に考える

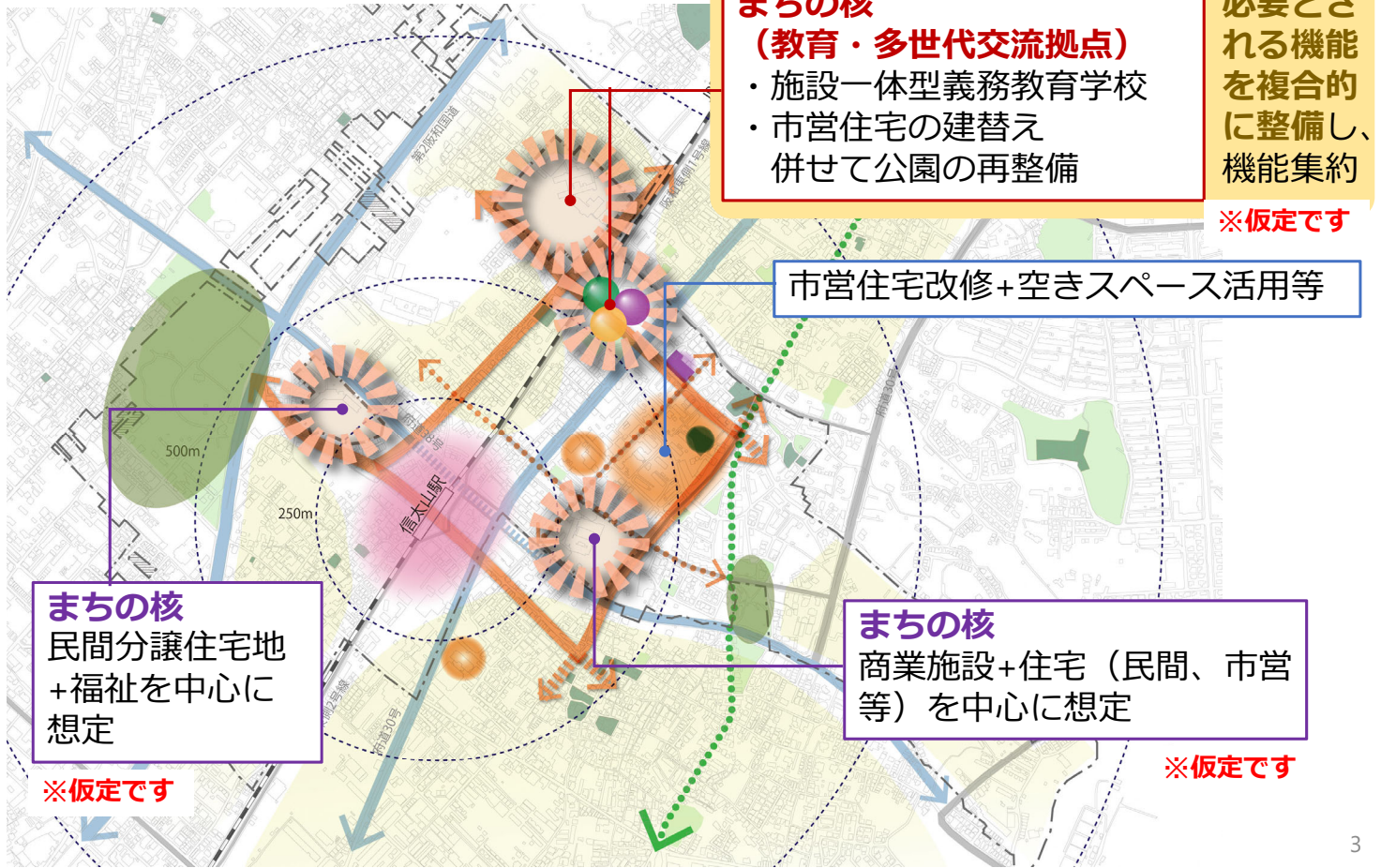
学校再編、市営住宅建替を機に「まちの核」をつくる

サウンディングの結果：駅に近い、幸小・池上小、人権文化センターの土地利用ニーズが高い

1. 将来のまちの姿（機能の配置等）～考える視点とイメージ～

（検討会議（3/28）配布資料 ダイジェスト版）

まちの姿のイメージ ※あくまでイメージです



3

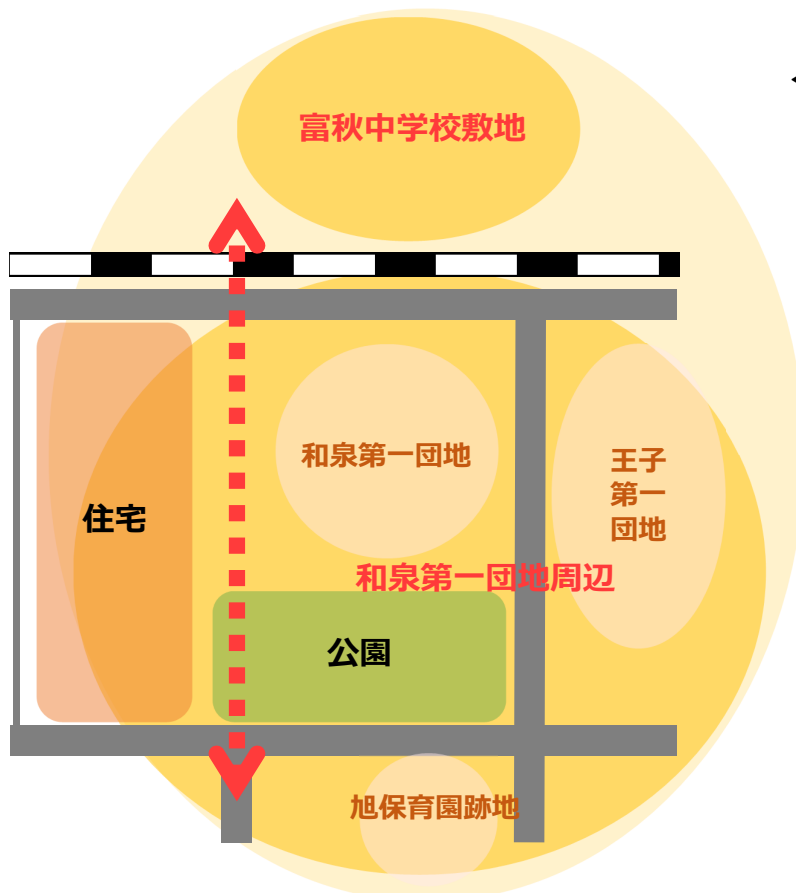
2. 「まちの核」（教育・多世代交流拠点）整備の考え方

<考え方>

- ①地域の中心（へそ）に“和泉第一団地周辺”と“富秋中学校敷地”の2つの「まちの核」

※施設一体型義務教育学校（小中一貫校）となった場合の仮定です

- ②和泉第一団地周辺は、**建替用地**（和泉第一・王子第一）+**更地**（旭保育園跡地）を活用



※住宅・公園の位置は例です

3. 前回部会（2/27）のふりかえり

<このまちに必要な生活機能>

- ①居場所（いつでも、だれでも使える） …多目的スペースとパブリックスペース
- ②図書館、勉強しやすい場所（家ではリビングが勉強に最適）
- ③相談・サロン機能（解決できる、支えてくれる、やりがいがある）
- ④高齢者のための介護施設、医療施設など
- (⑤働く場 … 通勤距離を短く)
- ⑥日常購買、飲食など+駐車場
- ⑦観光資源
- ⑧子どもがボール遊びもできる公園

<サービス・施設づくり方>

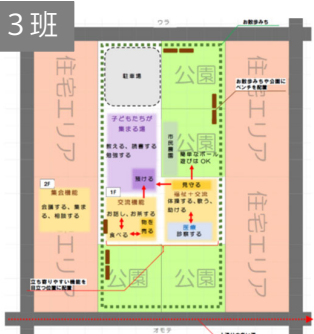
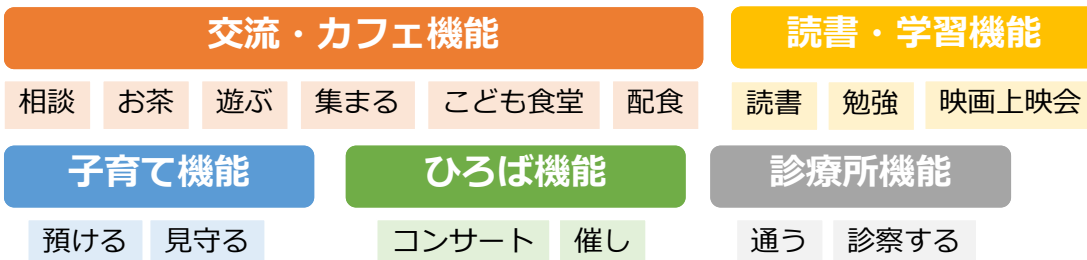
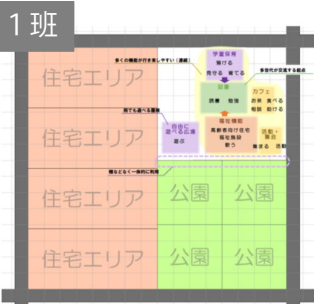
- ①コンパクトで多機能
- ②地域で運営
- ③みんなが自然に交流
(心のバリアフリー、関わりやすい)
- ④継続できる仕組み
- ⑤安全に

5

3. 前回部会（2/27）のふりかえり

各班のまとめ資料
をみてください

4. 多世代交流拠点に入る機能のイメージ（各班まとめ）



4. 多世代交流拠点に入る機能のイメージ（各班まとめ）

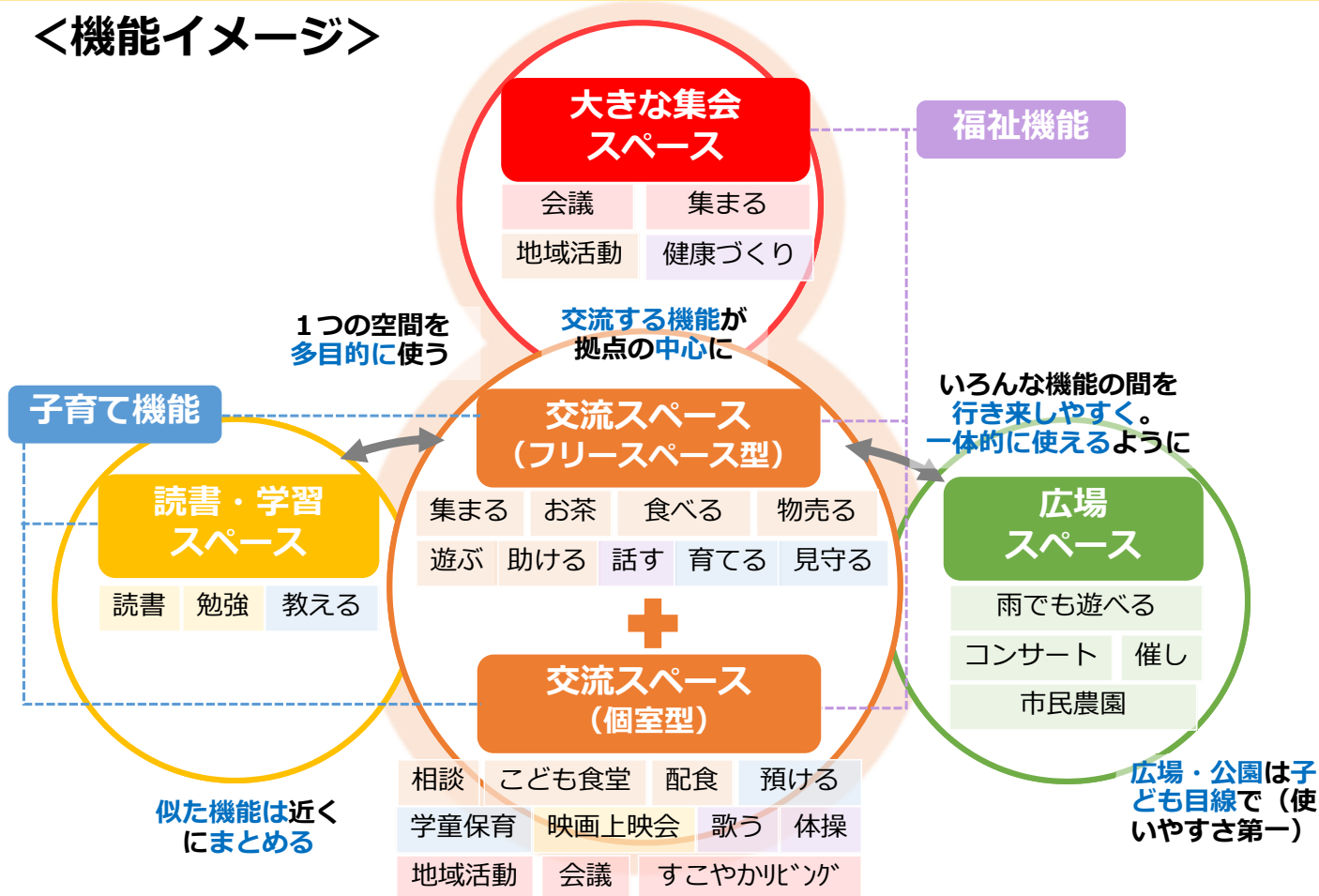
3つの「まとめ」から【多世代交流拠点】の要素を抽出すると...

<共通するつくり方のポイント>

- ① 似た機能は近くにまとめる
- ② 1つの空間を多目的に使う
- ③ 交流する機能が拠点の中心に
- ④ いろんな機能の間を行き来しやすく。
一体的に使えるように
- ⑤ 広場・公園は子ども目線で（使いやすさ第一）

4. 多世代交流拠点に入る機能のイメージ（各班まとめ）

<機能イメージ>



9

5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

<交流スペース>

フリースペース型

- ・ カフェ・物販スペース $100\text{m}^2 \times 1\text{室分} = 100\text{m}^2$
- ・ 多目的イベントスペース $100\text{m}^2 \times 1\text{室分} = 100\text{m}^2$



10

5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

<交流スペース>

フリースペース型

- ・子どもが遊べるスペース $100\text{m}^2 \times 2\text{室分} = 200\text{m}^2$
(仕切れば大小さまざまな活動可能)



子どものスペース (わくわくランドたまかわ : 230㎡)



親子スペース (母と子のふれあいひろば : 120㎡)

11

5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

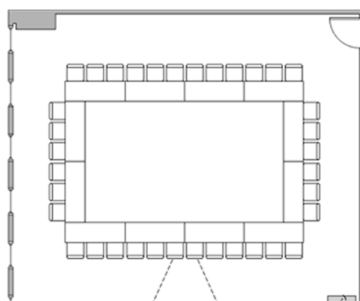
<交流スペース>

個室型

- ・活動・会議スペース $100\text{m}^2 \times 2\text{室分} = 200\text{m}^2$
(仕切れば大小さまざまな活動可能)
- ・相談・憩いスペース $30\text{m}^2 \times 3\text{室分} = 90\text{m}^2$

フリースペース型+個室スペース型を足すと...

700㎡程度



40人程度 (車座) の会議スペース (100㎡程度)



16



相談・憩いスペース (30㎡程度)

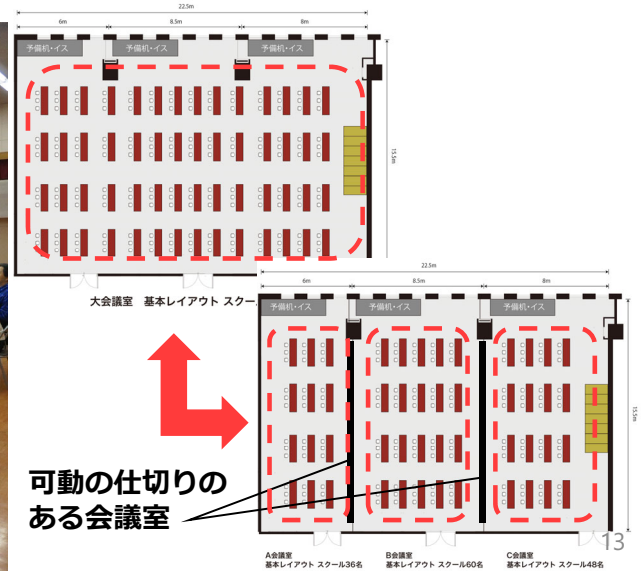
12

5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

<大きな集会スペース>

- 大きな集会スペース $350\text{m}^2 \times 1 \text{室分} = 350\text{m}^2$ } **350m²程度**
- (仕切れば大小さまざまな活動可能)

参考：人権文化センター大会議室：350m²



5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

<読書・学習スペース>

- 読書・学習スペース $300\text{m}^2 \times 1 \text{室分} = 300\text{m}^2$ } **300m²程度**

参考：にじのとしょかん：290m²



5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

<広場スペース>

- ・ 屋根付きの屋外スペース（公園とセット）

80m² × 1カ所 = 80m²

80m²
程度



屋外スペース（屋根の場所で80m²程度）

15

5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

<その他>

- ・ 事務所・資料室

参考：人権文化センター事務所：250m²
同上資料室：160m²

300~400m²
程度

- ・ 共用スペース（廊下・トイレ等）

参考：富中校区の公共施設の共用部分面積：約4割

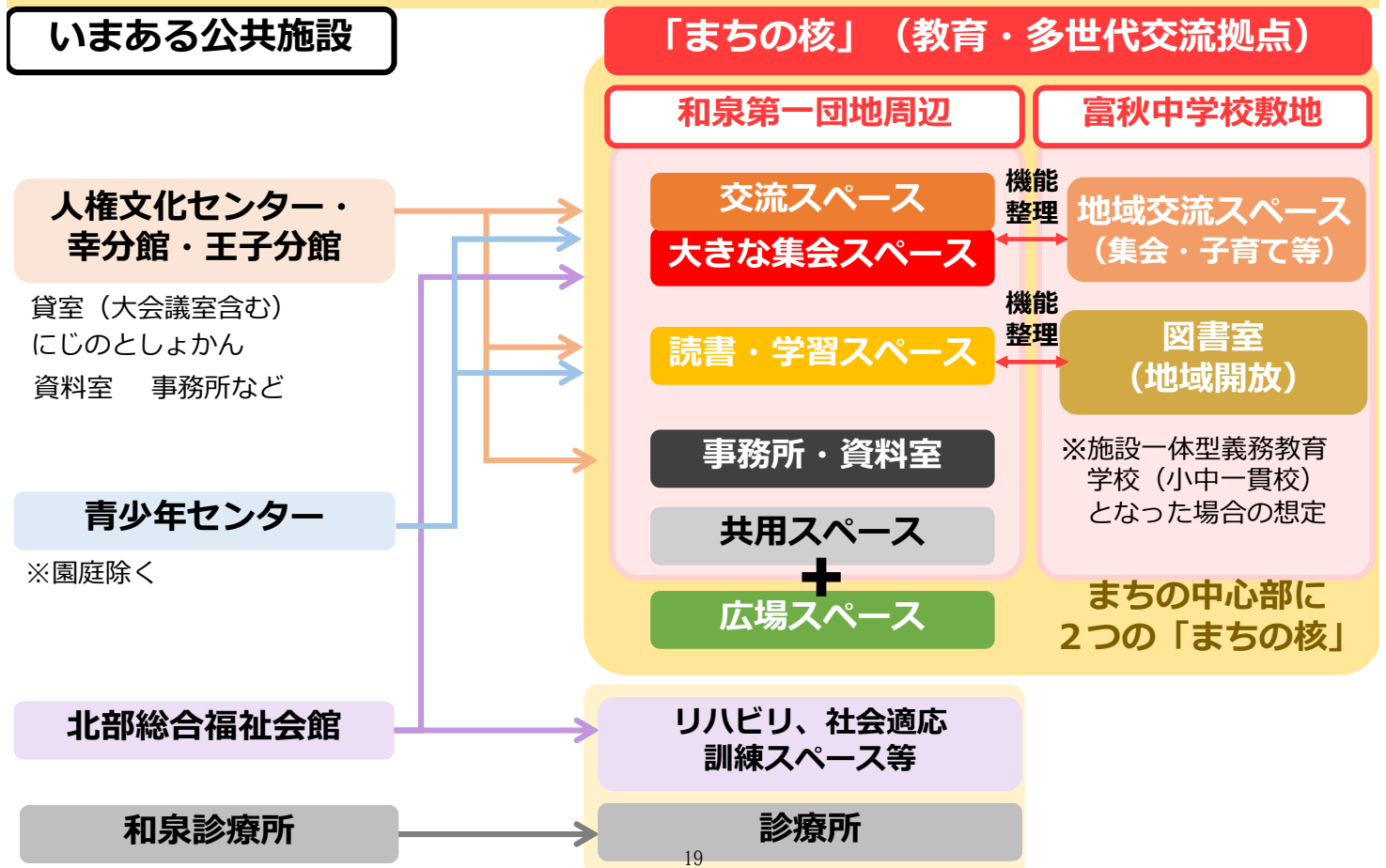
施設面積
の4割程

5. 多世代交流拠点の規模のイメージ



新たな多世代交流拠点
合計2,750~2,950㎡
 ⇒大体 **3,000㎡** 程度

6. 多世代交流拠点と今ある公共施設の関係



第5回住環境・コミュニティ部会 主な意見

《多世代交流拠点について》

●地域が大切にしたい生活機能について

- ・和泉診療所は、伯太校区内の診療所よりも近いため、伯太校区からの利用者がかなり多い。診療所は地域住民にとってアクセスの良いところにあることが魅力
- ・お年寄りが安心して暮らしていくことを考えると、診療所は大事な意味を持つ
- ・図書館機能を考えるにあたっては、地域の求める図書館機能となるよう考えてほしい
- ・にじのとしょかんの機能を、今後どのように地域に落とし込むか工夫がいる
- ・にじのとしょかんによる各小中学校へ本の配布・読み聞かせなどの取組みなど、地域の機能を充実させてきた取組みを調べ、次世代に残すことで地域の伝統になる。それをアピールすることで、地域に人が来るようになり、若返り、活性化し、多世代交流も発展していくことを目指したい。どんな機能が必要か、精査が必要。

⇒地域にとって、診療所や図書館が持つ意味については、地域の実際取組みなども踏まえて、まちづくり構想に反映させたい（事務局）

●施設の管理・運営について

- ・今後診療所をどのように維持・継続していくのか、内容や形式について、今の地域ニーズに合っているかも含めて、今後のまちづくりの中であり方を考えないといけない
- ・施設を建てて終わりではなく、誰が維持管理していくのか、地域に精通した人が運営していけるように考えないといけない
- ・昔と比べて地域を支える仕組みが崩れてきているので、これからつくる新たな施設の運営などをきっかけとして、地域を支える仕組みを再構築する必要がある
- ・自分たちで事業を行い、地域の雇用を増やしていく考え方をしていけないといけない

《将来のまちの姿について》

- ・機能だけでなく、駅前など、見た目として「まちの顔」となる場所にしないといけない
- ・二つの「まちの核」（和泉第一団地・富秋中学校と幸小学校）が左右で分断されているようにみえる

⇒中学校区の中で一か所を整備するのではなく、長いスパンの中で段階的に、「まちの核」同士をつなぐ通りをどうするか等、検討会議で議論していきたい。（事務局）

- ・1度で引越しが可能、コミュニティが崩れないように、という点は入居者にとって大事

⇒まちづくり構想の中で、条件として反映させることを考えたい（事務局）

- ・高齢者も多いので福祉に強いまちづくりをしていく必要がある
- ・一番の「まちの核」である和泉第一団地を建替えた際、優先されるのは高齢者だと思うが、子育て世帯が入る余地があるのか

⇒これから団地を建替える中でできる跡地に、新たな住宅ができていくイメージ。（事務局）

- ・ただ住宅をつくっても新たな人は来ない。魅力と思える提案を（食の安全をアピール等）

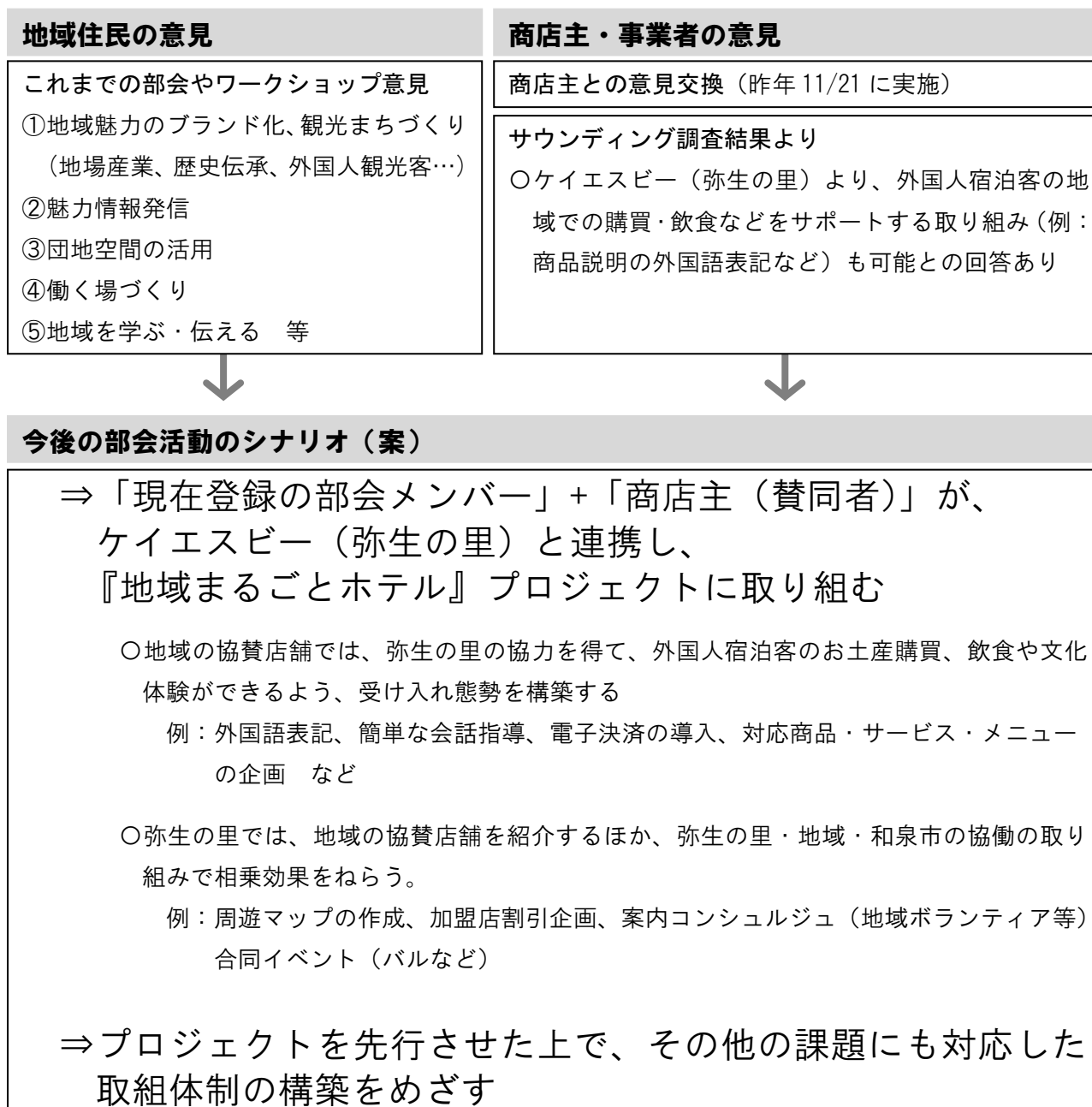
（まとめ）

離れている「まちの核」同士のつなぎ方については今後検討会議で議論していく。公共施設の再編をきっかけとして、「まちの核」をつくっていき、新たな施設を地域で運営していく視点や、福祉の目線を取り入れながら、全体的に夢のある形にできるように、まちづくり構想について今後議論していく。部会としての議論はここまでとなるが、今後もまちづくり検討会議の中で引き続き議論していく。その後まちづくり構想の素案が出来てからは、パブリックコメントやアンケートの実施を予定。

《その他》

- 市の「お互い様サポーター事業」について、ゴミ出しの手伝い、買い物代行、お出かけ支援、図書館の貸出代行、花壇・家庭菜園のお手入れの手伝い等をボランティアとして行っており、御礼として和泉市の特産品とポイントとして交換する仕組み。活動を通じて、周りの人に自分のできることを少しでもやってあげる意識を持ってもらえたら。幸・池上校区で利用したい声も聞くが、サポーターが少なめの状況

地域活性化部会の進め方について【案】



地域活性化（にぎわいづくり）に関するこれまでの意見 （部会・ワークショップなど）

◎地域魅力を集めて「地域ブランド」づくり、観光まちづくり

- ・地域内に**食事場所**を増やす（例：小栗の湯、屋台、商店・スーパー）
- ・**地場産業**（アクセサリ・ガラス等）の**体験・販売**の場（団地空間を活用）
- ・「**アクセサリづくり体験**」の拡充（幸小⇒他校でも）。**ものづくりを強みに**
- ・ガラス工芸やアクセサリづくり大会・コンテスト ・小栗の湯で寄席
- ・**だんじりや盆踊りへきてもらう**しかけ（だんじり朝市、盆踊りの浴衣スペース用意など）
- ・**地域の伝承**（小栗街道等）を**アニメ化・アート化**（分かりやすく）
- ・民泊で**外国人誘致**（個人商店同士が、**お店の情報の共有や共通のポイント**をつくるなど。近隣温泉から外国人買い物客がきている）
- ・親子づれ・高齢者などが**いつでも誰でも来られる空間（集客施設）**を増やす（子育てカフェ、旭保育園跡地などの活用）
- ・駐車場が有りボール遊び・フリークライミングなど**スポーツできる場所**

◎地域魅力・情報を発信する機会をつくる

- ・月一**マルシェ**（放光池公園）＋マルシェまでの道は**並木道**に
- ・池上曾根史跡公園の大型イベント時に**合同イベント・活動**
- ・**TV取材**や**ホームページ**、**Youtube**、**SNS**でコストかけずに情報発信

◎団地空間（空き家・店舗、壁）を活用して地域のにぎわいつくる

- ・**空き店舗は若い世代**に入ってもら（若い世代には一定期間無償で貸すなど）
- ・壁に**アート**を描く（アートのまち） ・住民管理の小さな図書館
- ・モーニング・居酒屋サロン ・すこやかリビング（拡大）

◎地域で働く場ややりがいをつくり新たな地域の魅力とする

- ・“地域”でお金を稼げるよう**小さな仕事・仕事場**をつくる（育成できる人材を招く）
- ・行政ではなく**地域のやる気のある人たちで施設を運営**
- ・プロチームのキャンプや試合の誘致。運営は地域で行い雇用も生む。

◎地域のことを学ぶ・伝える場をつくる／後継者を育てる

- ・**地域の歴史を学べる**講座・場所 ・和泉弥生ロマンツデーウォーク（復活）
- ・地域で**三味線を所有し貸出し**（盆三味教室） ・盆踊り参加を学校へ呼びかけ

◎まちの移動を便利にする

- ・まちで買い物するための**駐車場をつくる** ・商業・飲食、医療施設など**集約**（まちの真ん中）
- ・**駅前**をひろく**快適**に（駅西口にも改札） ・線路の高架化
- ・バスの本数・ルート増やす ・地域で公共交通（マイクロバス）を担う

参考：民間事業者サウンディング調査での意見（抜粋）

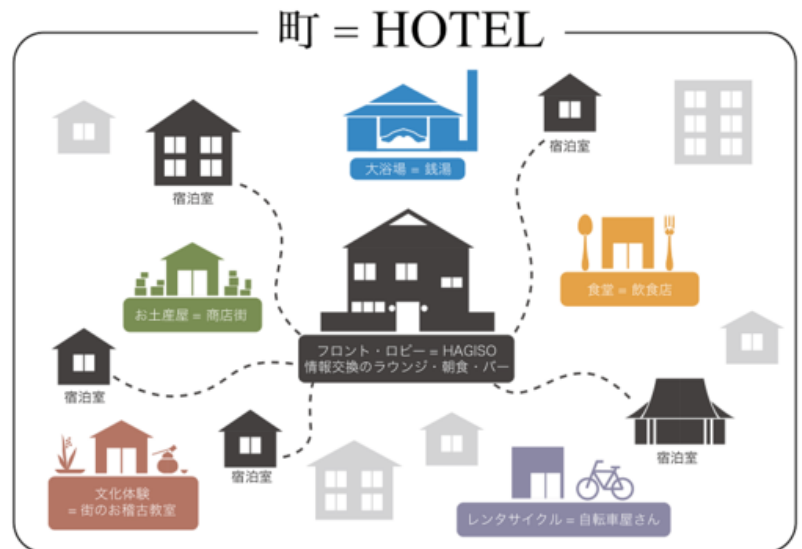
- ・インバウンドを狙って**体験型施設**（包丁研ぎ、茶道 他）を作ったら**活性化の可能性あり**
- ・駅近の場所に**商業施設**（大型スーパー）あれば**活性化につながる可能性あり**

“ホテル”と“商店”が連携して 「地域を丸ごとホテル化」

事例：HANARE（東京都台東区谷中）



- 外国人観光客への「**日本人の日常体験**」（アクティビティ）の提供と「**地域の活性化**」のため、“ホテル”と“商店街”が提携。
- 地域全体を“**大きなホテル**”に見立て、宿泊客は日本人が日常利用する飲食店での**飲食や文化体験を楽しむ**。



<提供していること>

- チェックイン時に近所の**銭湯チケット（宿泊費に含む）配布**
- オリジナル周遊マップを配布**。
（マップは**昼・夜2種類**）
おすすめスポット・店舗を掲載。
- コンシェルジュ**が外国人の通訳や、まち散策情報を提供。
- 加盟店割引企画**
…レンタサイクル 10%引き
…着物レンタル 500円引き 等
- 英語**による**商店街ウォーキングツアー**（お店や工房なども案内）

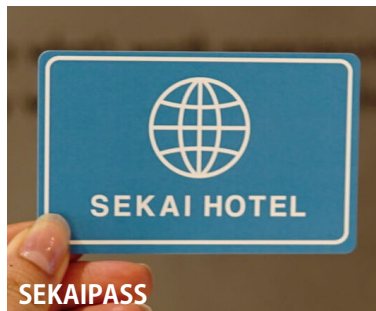


類似事例：SEKAI HOTEL（東大阪市など）

- ・ HANARE と同じく、**地域全体で大きなホテル**をコンセプト。

<実施していること>

- ・ 宿泊客は、「宿泊費+2千円」で**周辺提携店の特典を受けられる「SEKAI PASS」**を購入。
- ・ 提携店は約 10 店。提携内容はドリンク 1 杯無料、有料の和菓子づくり体験など



笑福堂	
住所	大阪府東大阪市足代3-5-12
TEL	06-6721-3163
営業時間	7:30~18:30
定休日	木曜日
特典	和菓子作り体験 3プラン 各1500円 ※予約必須 ① 練り切り作り ② 大福作り ③ 三笠（どら焼き）作り

提携店情報



商店みんなでインバウンド対策

事例：駒川商店街振興組合（大阪市住吉区）

<実施していること>

- ・ 3カ国語対応のホームページ作成
- ・ **多言語の会話シート**の作成
- ・ インバウンド**講師を招いた研修** など



類似事例：黒門市場商店街振興組合（大阪市中区）

<実施していること>

- ・ 外国語表記の共通横断幕や大型提灯
- ・ **多言語対応の商店街マップ**
- ・ **商店主向け英会話教室**（毎週。1回1人1,000円）等
（通行量は5年前の2.6倍。H28から全国に先駆け実施）



第2回地域活性化部会 主な意見

《部会の進め方（地域まるごとホテルプロジェクト）について》

〔地域の商店が連携して地域全体をホテルと見立てる「地域まるごとホテルプロジェクト」をきっかけとした地域の活性化について〕

- ・「地域まるごとホテル」の検討範囲は、どれぐらいの広さか
⇒基本は富秋中学校区内。商店が集積しているところだと考えると、団地内店舗が中心の取組みになるのでは。弥生の里の利用者等が歩いて回れるイメージで、取組みを考えていく（事務局）
- ・実際に外国人が地域に滞留する時間はどれくらいあるのか
⇒関空から大阪、京都、奈良などへ観光に行く際の拠点利用、もしくは日本観光を終え帰国前の拠点としての利用が多い。夜遅い便で空港に到着した場合や、飛行機の出発までちょっとした時間が空く場合に半日程度訪れる人が多い（事務局）
- ・地域に魅力的なお店はあると思うが、その存在が日本人にすら知られていない現状があると思う。例えば、この取組みで周遊マップを作った場合、日本人観光客が来てもらうきっかけになるのでは
- ・外国人が何を楽しみに、興味を持って日本に来るのか、今後弥生の里に聞くことは可能
- ・佐竹ガラスでは体験会の実施や、HPづくりの工夫（多言語表示、空港から佐竹ガラスまでのアクセスを紹介）などで、観光客に来てもらえるような工夫を検討中
- ・地域を歩く外国人が増え、お店にくる外国人もいるが、コミュニケーションが取れる体制が整っていないので、現状はお客を逃がしてしまっている
- ・周遊マップを作っても、お店で外国人に対応できる体制が整わなければ意味がない
- ・池上曽根史跡公園にも遠方から人が来ているが、帰りに駅の反対側である幸校区の飲食店等へ寄ってもらえるようになれば

（まとめ）

全体としては、提案した内容については特に異論はなく、概ね賛成だった。今後、弥生の里との顔合わせの機会を設け、再度この「地域まるごとホテル」プロジェクトについて話をする。プロジェクト化できそうという方向になれば、居場所づくりプロジェクトと同様に、部会からプロジェクト委員会のような組織を立ち上げて具体的に誰が何をするかなどプロジェクトを動かす為の本格的な検討をスタートする流れとする。

《その他の課題について》

■団地内店舗の今後について

- ・市営住宅の建替えに伴い、将来的に商店をある程度まとめて配置し商店街をつくれたら
 - ・現行ルールでは当初の業種を変更できず、新たな商売を始められにくいのが現状。行政として、新しいことをやる気のある人をサポートする考え方はできないか
- ⇒業種変更を可能とするルールについては、建築住宅課内で早い段階で前向きな検討を行いたい（市）

■公共空間の美化、今後の維持管理について

- ・村長の銅像、極楽橋などの歴史資源の解説看板の劣化等、何かの機会に綺麗にしたい
 - ・団地内の雑草等公共空間の維持管理が課題。基本入居者中心だが、高齢者が増えて機能せず、シルバー人材等に委託する費用もあまりない
- ⇒改めて関係者を呼び、今の状況共有と、今後の方向性を話し合うべき